

最高の憲法と最低の政治の、不思議の国ニッポン

4月14日(日)

アーサー・ビナードさん講演会へのお誘い

「アーサー・ビナードさん講演会」実行委員長
中村 雅子(67年第二社会学部入学)

新年おめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いします。

早速ですが、法政大学Ⅱ部九条の会は、発足3周年記念行事として、アーサー・ビナードさんの講演会を開催いたします。

4月14日(日)午後2時から
千代田区「生き生きプラザ」
地下1階「カスケードホール」
麴町駅5・6番出口 徒歩5分
半蔵門駅5番出口 徒歩5分
市ヶ谷駅 徒歩13分



「泥沼はどこだ」2012年
小森陽一氏との対談集



1967年ミシガン州生まれ
1990年単身来日

【アーサー・ビナードさんの御紹介】

講師のビナードさんは、アメリカ生まれで20数年前日本に来て、日本語で詩を書く詩人です。詩集『釣り上げては』で中原中也賞を受賞したほか、絵本、エッセイ、翻訳などの著作活動、ラジオのパーソナリティとしての活躍のほか、アメリカ人の視点から日本社会を鋭く分析し、様々な場所で発信しています。

二大政党制は「ハンバーガー」と「チーズバーガー」のどちらかしか選べない制度だと喝破したのも彼です。「共和党」と「民主党」のキャッチボールの中で育った彼ならではの実感のこもった発言です。

日本国民が日本国憲法によって守られていることを日本人以上に理解し、改憲することの愚かさを警告しています。

【聞いてみたい！「最高の憲法と最低の政治の、不思議の国ニッポン」】

今回の「最高の憲法と最低の政治の、不思議の国ニッポン」と題する講演は、安倍政権になった今、時宜にかなった内容であり、「九条の会」への応援歌として期待したいと思います。

【原発を止めさせるために何をしなければならないか】

ビナードさんは、「僕のおじいちゃんの育った時代まで、人類は放射能に汚染された空気を吸うことはなかった。」といいます。人類史の視点で、1941年シカゴで最初の原子炉が作られてから、核兵器開発、果てしない核軍拡競争、3.11福島原発事故へ繋がったことの意味を考えています。

彼は、人類が否応なく放射能汚染の中で生きることが強いられていることを自覚し、核戦争の危険を排除し、原発(核兵器の原料作り)を止めさせるために何をしなければならないかを真剣に模索しています。

昨年夏には広島市の被爆遺品をモチーフに『さがしています』という写真絵本を出版しました。被爆者が生き抜いてきたこと、被爆した広島がやり残したことの中に、これから人類が生きのびていくヒントがあるのではないかとビナードさんは考えたのです。



被爆者の声をうけつぐ映画祭にて

【アーサー・ビナードさんと故伊藤英治さんとのつながりから】

原発にしがみつ়勢力と改憲勢力は重なることがいっそう明らかになりました。一旦手に入れた権力や利権を守るためにはどんな手段でも使ってくるでしょう。格差社会の問題にしても、小泉改革以降、労働者は非正規雇用、失業の増大で苦しめられてきましたが、経営者側は給料2倍、退職金3倍になって、それでも欧米に比べればまだ格差が足りないと言っているそうです。厚顔無恥で、「主権者は財界なり」という姿勢がありありです。

私たちの九条の会も3.11以降、九条を守ることと原発をなくすことを一体に取り組んできました。これまでの運動を検証し、これからどんな展開をするのかを考えるためにも、ビナードさんの講演を聞き、成功させることは意味のあることだと思います。

ビナードさんを紹介してくださったのは、私たち法政大学同窓生の友人である故伊藤英治さん(二部社会学部1965年入学)です。伊藤さんは、編集者として今西祐行全集、まどみちお全詩集などを手掛け、ビナードさんの詩集『ゴミの日』を編集されました。2010年12月には法政Ⅱ部九条の会の初めての行事として、伊藤さんの講演会「児童文学と私」を企画しましたが、残念ながら病に倒れ実現することができませんでした。伊藤英治さんが生きていれば、今回のビナードさんの講演会の実現を、きっと喜んでくださることと思っています。

みなさま、是非お出かけくださるようお誘い申し上げます。

(連絡先 03-3256-7058 木村誠司法書士事務所)